



生活発表会 (3・4・5歳児)

日時 12月 3日(土) 9:00~14:30

場所 第二みみよう保育園5階ホール

内容 ◆第一部・3歳児 9:00~

◆第二部・4歳児 10:30~

◆第三部・5歳児 13:00~



子どもたちが毎日、劇や、合奏、表現などを楽しく取り組んできました。当日は、様々な姿が見られることと思います。



12月22日(木)

昔は、どこの家でも年末に餅をつく杵の音がひびきわたっていました。今では、臼、杵、釜、蒸籠といった道具も家庭で少なくなっており、機械でついたり、店で買ってきたりしているようです。

もちは「望」に通じ、物事が満ち足りたことをあらわします。正月に餅を供えて家族みんなが満身に、希望がかなえられるようにと願うのが習わしでした。

当園では、22日に2歳児クラス以上の子どもたちが5歳児のおじいちゃん、おばあちゃんにいろいろ教えていただきながら、一緒にお餅を丸めたり、つくところを見たりして、楽しく過ごします。

べったんべったん



消さないで あなたの心の 注意の火

広島市南消防署 警防課救助係



平成28年 12月の園だより



「保育と行事の考え方」

早いもので、もう師走となりました。12月は、生活発表会、お餅つき、クリスマス会と大きな行事が続きます。寒暖差が激しいうえに、まだ当園での発症はありませんが、インフルエンザの流行が例年になく早いとのこと。体調にはくれぐれも気をつけてあげてください。

さて、つい先日、フェスティバル(作品展・バザー)が終わったと思ったら、12月3日(土)には生活発表会があります。みみようでは、年間計画を実施するにあたり、行事中心になるのではなくあくまで保育中心、子ども中心でありたいと考えています。園の三大行事といわれる「運動会」、「フェスティバル」、「生活発表会」についても、見栄えや出来栄を重視するのではなく、子どもたちの日常保育の延長線上にあるものと考えています。何より、子どもたちの“やってみよう”という意欲を大切に、さまざまなことに友だちと相互に刺激し合い協同して挑戦していくという気持ちをどう膨らませていくかに重点を置いています。

子どもの教育への関心が高くなってきている今、いつもの繰り返しになりますが、子どもが主体となった協同的な学びが注目されています。平成30年に保育所保育指針(保育所保育のガイドライン)が改訂されます。基本的にはこれまでの子ども主体のあそびを通じた保育、環境による保育が継承されますが、保育者が一方的に手とり足とり丁寧に指導をするのではなく、子どもが主体的、能動的にあそび込む中で「対話」を通して学ぶことを促すということです。この学びを「アクティブ・ラーニング」とい

い、コミュニケーションスキルや探究心、物事をやり抜く力を総合的に高めることがねらいとなります。一方的な指導は「やらされている感」につながり、生きる力につながらないと再認識されたのです。

生活発表会では、年長児ともなるとテーマづくりから参加します。自らがどんな劇をしたのか、どんな曲で踊りたいのか、どんな楽器を使って演奏したいのか、子ども同士で「対話」しながら、普段のあそびの中から、あるいは絵本や物語、時にはテレビなどを参考にしながらイメージを膨らませていき、それぞれの役柄や衣装、演奏する楽器などを決めていきます。保育者は、その子なりにイメージを膨らませていくためにはどう「動機づけ」をし、「対話」を発展させていくかということを常に考えています。

また、赤ちゃんの時にしっかり可愛がられ、相手をしてもらうことで、自己肯定感が育まれ、五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)を通して身体で感じるさまざまな経験が「もっと〇〇したい」という意欲をどんどん高めていく、その積み重ねが共同的な学びにつながっていくと考えています。近年のみみようでは、0歳時から「見て・触って・やってみたくなる」環境を構成しているのもそのためです。

生活発表会では、どの子もその子なりの個性で演じます。堂々としている子、自分のペースを崩さない子、恥ずかしがる子、舞いあがる子がいたり、さまざまな形でその子なりの表現をすることと思います。しかし、それも個性であり、成長の一過程です。どうかあたたかい目でご覧いただければ幸いです。

成道会 12月8日(木)

インドのシッダルタ王子(後のお釈迦様)が長い修行の末、お悟りを開かれた日が12月8日です。この日は、成道会の式を行い、「良い子になりますように」とみ仏様に手を合わせます。健やかに、そして、『感謝と思いやり』の心を持ち、『何事にもやる気のある子ども』に育ってくれることを念じています。

大晦日

12月31日



「みそか」とは30日のことで、一年の最後の日を「おおみそか」と言います。大晦日の夜、除夜の鐘が108回鳴ります。これは、人間の煩惱が108つあるという仏教の教えからきたもので、それを取り去って新年を迎えるわけです。107回を年内に、最後の一つを新年につきます。

子育て応援メッセージ

子どもがいる社会は

すばらしい



子どもが社会にいるのは、大人にとって、すごくいいことです。子どもの笑顔は大人を幸せにします。子どもと一緒に「うれしい」「良い時間を過ごせた」という満足を味わうと、この子たちがこれから生きる世界をよりよくしたいと思う気持ちが自然と強くなるものです。

日経BP社 中川李枝子著 「ママ、もっと自信をもって」 より